2025.1.11　白井市郷土史の会 1月例会

「八千代と白井の中世板碑」

房総石造文化財研究会　蕨由美

八千代市立郷土博物館の板碑の展示

白井市郷土資料館の板碑の展示

プロローグ1　八千代市内で多量の板碑を新発見

2020年2月、八千代市郷土歴史研究会の神野の総合研究の調査で、村田一男先生が土井昭雄家所蔵の板碑群を発見。

同6月に、八千代市郷土歴史研究会で調査したところ、板碑およびその破片の数は121点。うち有刻の板碑は31基ありました。

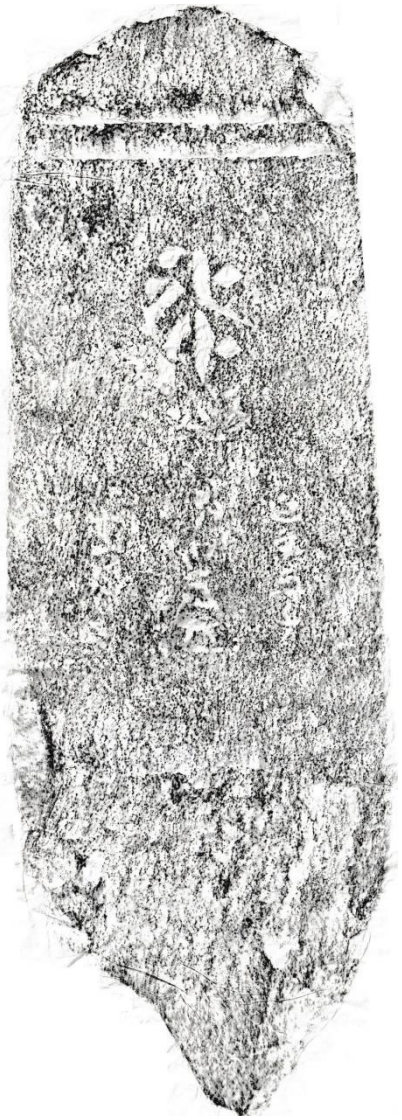
『八千代市の歴史　通史編』の一覧表の171基の報告以降の大発見となり、『史談八千代』第45・46号で報告、「ふるさとの歴史展」でも展示しました。

土井昭雄家所蔵の板碑群の調査

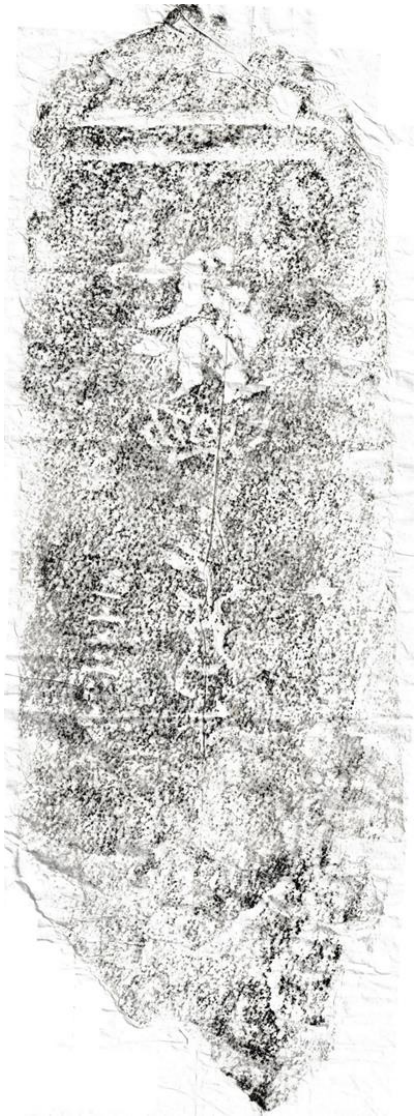
No. 1～12　有刻 完形 板碑　（12点）
No.13～31　有刻 上部 断碑　（19点）
No.32～43　無刻上部断碑（12点）
No.44～54　無刻完形板碑（11点）
No.55～86　無刻下部断碑（32点）
No.87～121　無刻断片　　（35点）
総計　板碑121点　＆　五輪塔空風部1点

2021年「ふるさとの歴史展」
での展示

神野の新発見の紀年銘のある板碑-1



No.1　（1358）
「延文三年／十一月　日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶



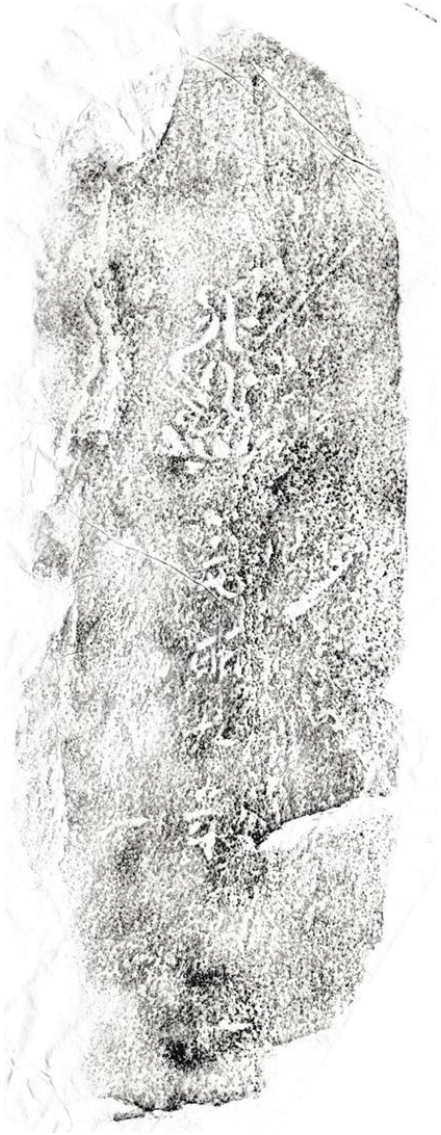
No.2　（1357）
「延文二年／十月　日」銘
二条線・キリーク・蓮座・花瓶

No.3　（1360）
「延文五年／十一月日」銘
二条線・キリーク・蓮座

No.4（1461）
「長禄五年／　月　日」銘
キリーク・蓮座

神野の新発見の紀年銘のある板碑-2

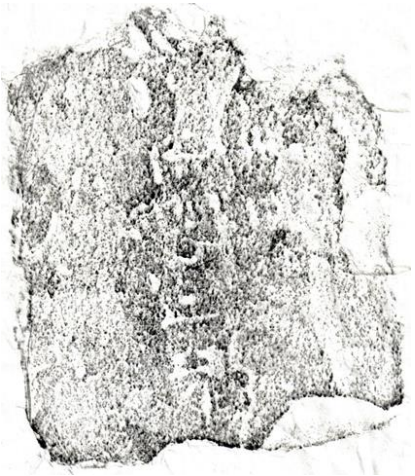
No.5　（1466）
「寛正六年」銘
キリーク・蓮座



No.6　（1477）
「文明九年」銘
キリーク・蓮座

No.8（1478）
「文明十年」銘
キリーク・蓮座・花瓶

No.9（1467）
「文正二年」銘
蓮座



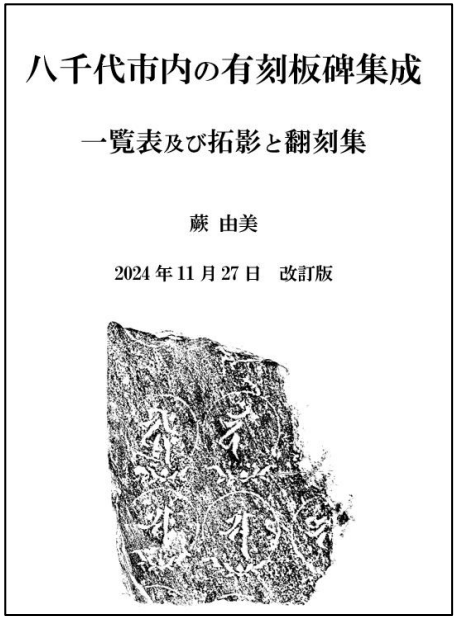
No.13　断碑（1467）
「文正二年」銘

プロローグ2　八千代市と白井市の位置関係

白井市東南部の谷田と八千代市北西部の小池は、神崎川を隔てて接している。
板碑を検出する中世の集落は、神崎川とこの川に合流する河川沿いに多い。

プロローグ3　八千代市と白井市の板碑のデータベース

八千代市の板碑データ
平成3年に刊行の『八千代市の歴史　資料編　原始・古代・中世』を基に、『史談八千代』46～49号掲載の板碑の新規ならびに再調査の報告を加え、2024年10月『八千代市内の有刻板碑集成』を作成。本講演は、これに寄ります。


八千代市内の有刻板碑集成

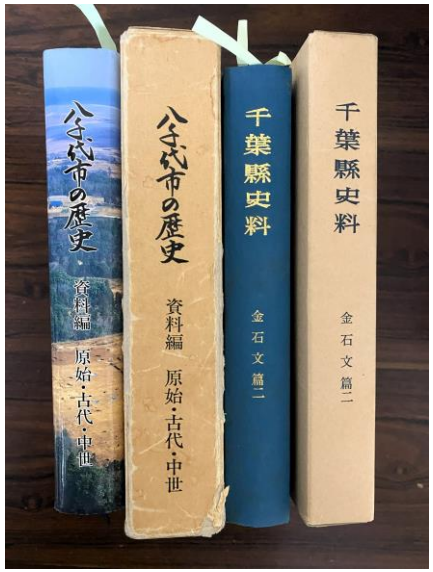
一覧表及び拓影と翻刻集

蕨 由美

2024年11月27日　改訂版

白井市の板碑データ
白井市教育員会により発刊された『白井市埋蔵化財調査集報 平成23年度～26年度』、『同 平成27・28年度』、『同 平成31・令和2年度』の3冊に掲載の調査データと、『千葉縣史料　金石文篇二』（1975年刊行）に掲載のデータを基にしました。

なお、無刻の板碑や破片は除去してあります。



白井市埋蔵文化財調査集報

―平成27・28年度―

平成30年3月

白井市教育委員会

千葉県立西部図書館
11-02514427-7

1.板碑とは？　「武蔵型板碑」

関東の板碑の多くは、秩父産緑泥片岩を使用し、頭部が三角で二条線を刻み、薄く長細い形をした「**武蔵型板碑**」と呼ばれる板碑です。

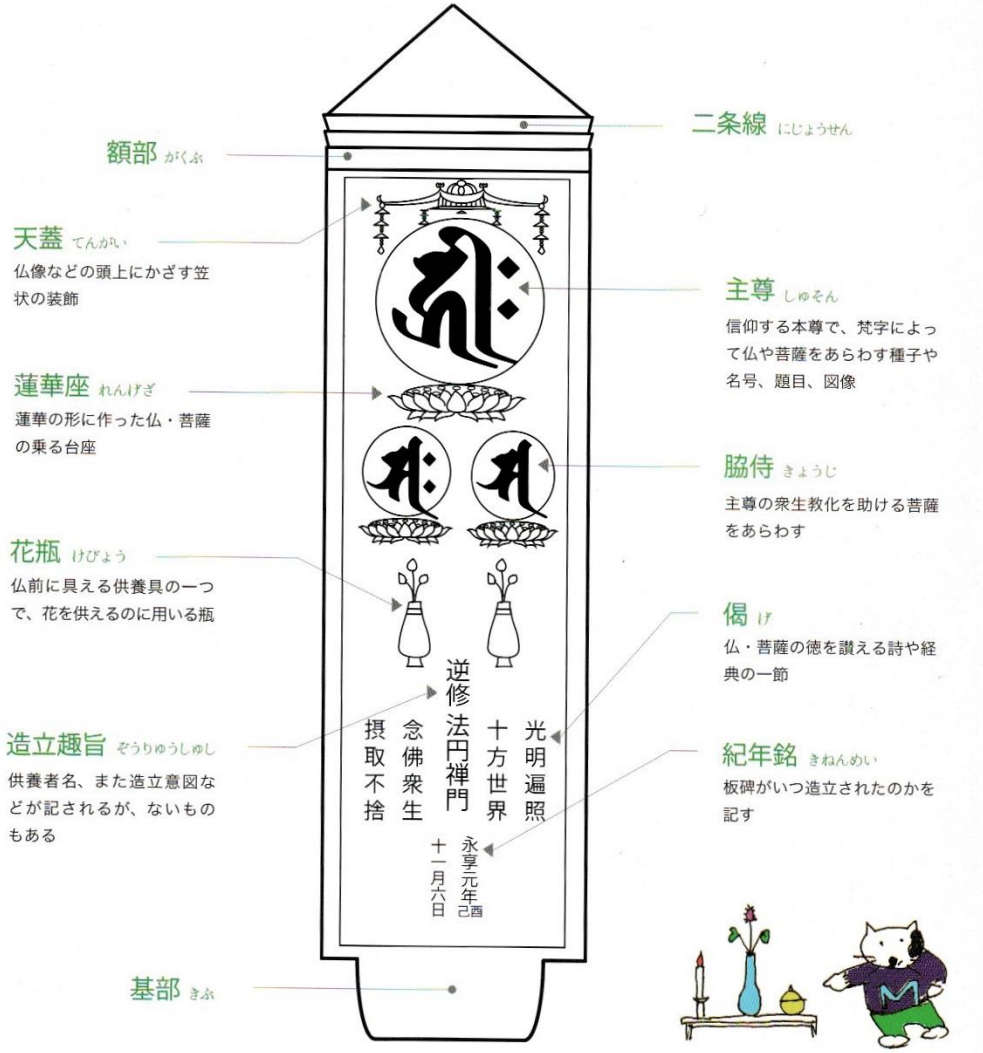
鎌倉時代、荒川中流域（畠山・吉見・比企・川越氏の支配地）の武士団を中心に、建立され、関東全域に広がりました。

埼玉県などでは、鎌倉時代の大型の武蔵型板碑も多数みられますが、時代が下がるにつれて、小型の簡略な板碑が多量に流通し、下総では戦国時代の終わりまで続きます。

なお、埼玉県小川町・長瀞町ではこれらの板碑の採石場遺跡が見つかっています。

板碑の各名称

「江戸川区の板碑」展図録より



武蔵型板碑の特徴

- 緑色片岩（りょくしょくへんがん）を石材として利用
- 板状に成形され、上部が三角に尖り二条線を持つ
- 13世紀前半から17世紀初頭にかけての中世に関東近郊で製作された石造物

板碑とは？　「武蔵型板碑」-1

埼玉県立歴史と民俗の博物館
武蔵型板碑の展示

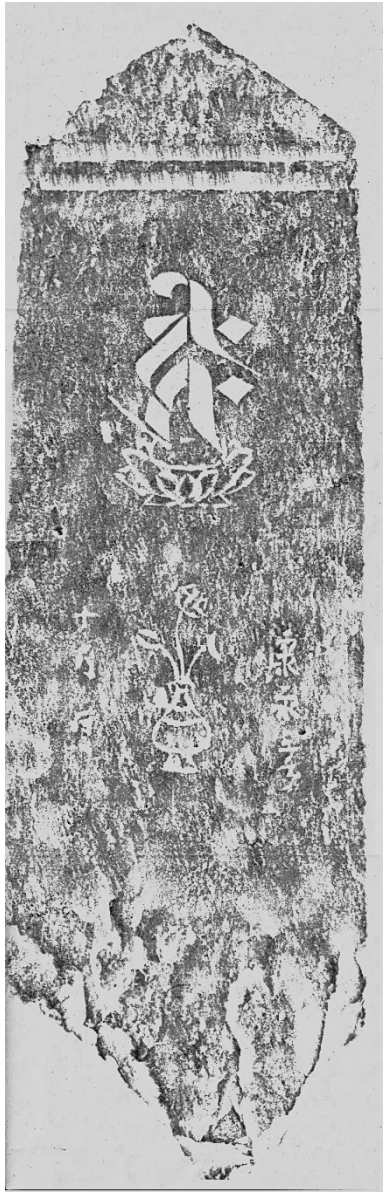
千葉市文化財　真蔵院の武蔵型板碑
永仁2年（1294）銘。
武石胤盛が母の供養に建立。

八千代市文化財
米本長福寺の武蔵型板碑
文正2年(1467)　他

板碑とは？　「武蔵型板碑」-2

神野の小名木淳家の板碑

康永3年（1345）銘



小名木淳家の板碑を祀る祠

貞和3年（1347）銘

板碑とは？　「下総型板碑」-1

　千葉県北部では、筑波石（黒雲母片岩）製で厚く大きめの「**下総型板碑**」と呼ばれる板碑が香取市や成田市、印西市などに多く分布しています。

宗吾霊宝館（成田市）前の下総型種字板碑
左：明徳2年（1391）銘　右：康永元年（1342）銘
2017.6.12撮影

竹林山妙光寺（多古町）の下総型題目板碑群
左：応安4年（1371）銘　　右：応永15年（1408）銘
2017.6.20撮影

板碑とは？　「下総型板碑」-2

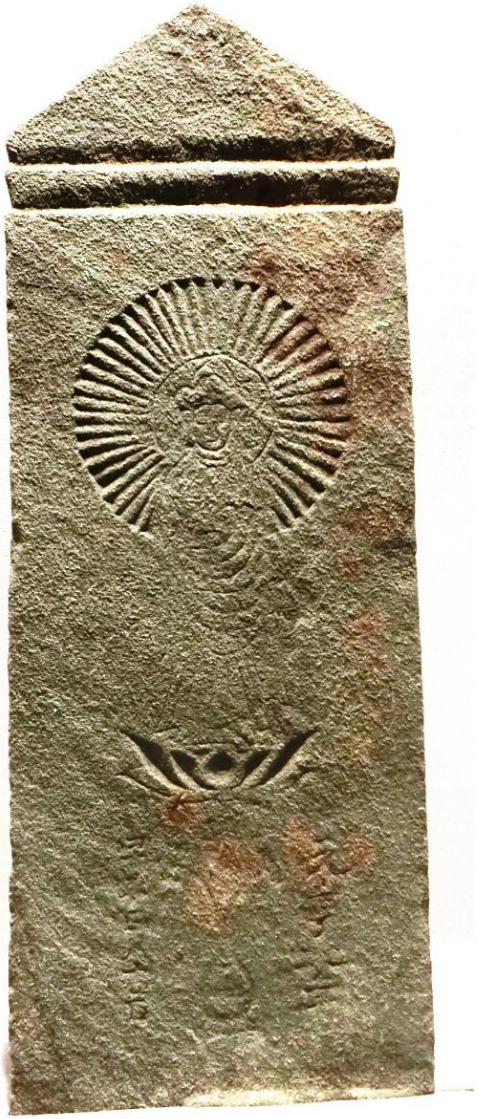
八千代市内の下総型板碑は3点、うち一番大きな下総型板碑が神野の玉蔵院にある。
白井市内では、法目の仏法寺に阿弥陀一尊を刻んだ下総型板碑がある。

八千代市神野の玉蔵院の
下総型板碑　種字「アーンク」
（胎蔵界大日如来）
市内最大の下総型板碑
市指定文化財　雲母片岩製
百名以上の戒名　南北朝期

八千代市米本逆水の桜井家の
下総型板碑拓影
種字「キリーク」（荘厳体）
建武2年（1335）銘

白井市復法目の仏法寺の
下総型板碑
種字「キリーク」（荘厳体）
正平7年（1352　南朝年号）

2.板碑の本尊は？　（1）図像板碑-1



日本最古の板碑　　右は復元品
嘉禄3年（1227）銘　阿弥陀三尊図像板碑
熊谷市須賀広（畠山重忠三十三回忌の供養塔か）
熊谷市Web博物館から

元享4年銘（1324）銘
阿弥陀一尊図像板碑
東京国立博物館所蔵
2018.7.26撮影

板碑の本尊は？　（1）図像板碑-2

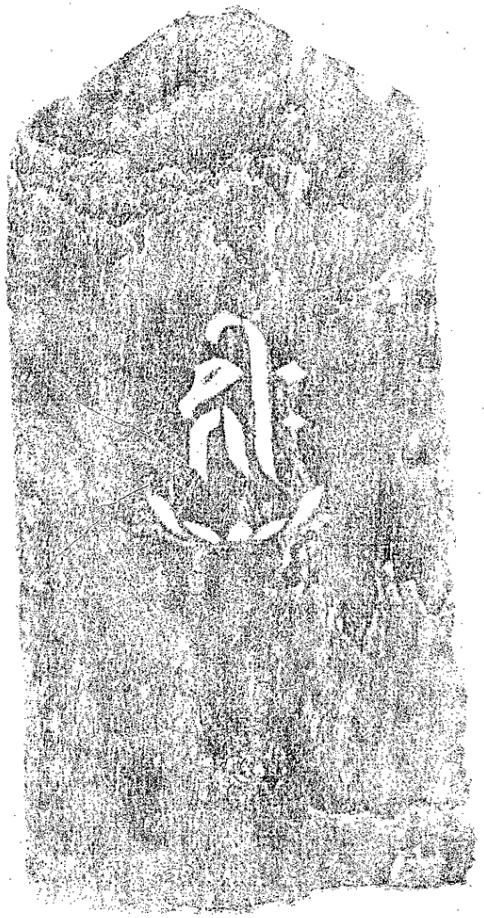
印西市龍腹寺の地蔵菩薩図像板碑

2023.8.27龍腹寺本堂内での調査

速報：
印西市の令和4年度の龍腹寺板碑調査（未報告）で、地蔵を浮き彫りにした板碑が見つかっている。
年代は14世紀末～15世紀初めごろか？
八千代・白井市内で図像板碑は見かっていない。

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-1　阿弥陀一尊

阿弥陀（キリーク）一尊種字　a類とb類があるが、
武蔵型のほとんどの種字は**キリークb類のみ**



八千代市村上正覚院の
キリークa類一尊種字板碑
a類は八千代市ではこの板碑のみ

a類　（正体）

b類　（異体）

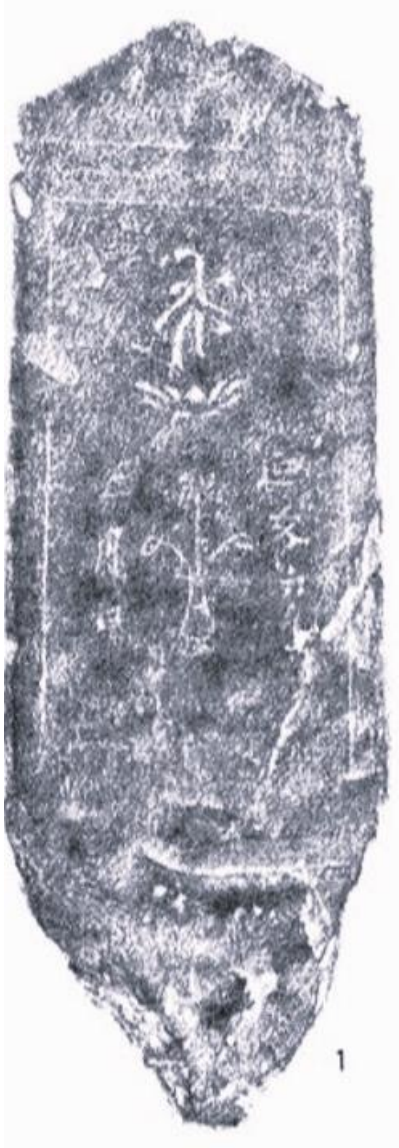
ａ類が阿弥陀如来の坐像を表すのに対して、ｂ類のキリークは来迎する真慈悲の立像を表す

神野の小名木淳家の
キリークb類一尊種字板碑
建武3年（1336）

神野の土井昭雄家の
キリークb類一尊種字板碑
延文5年（1360）

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-1　阿弥陀一尊-2

白井市法目の仏法寺の
キリークb類一尊種字板碑
元徳3年（1331）

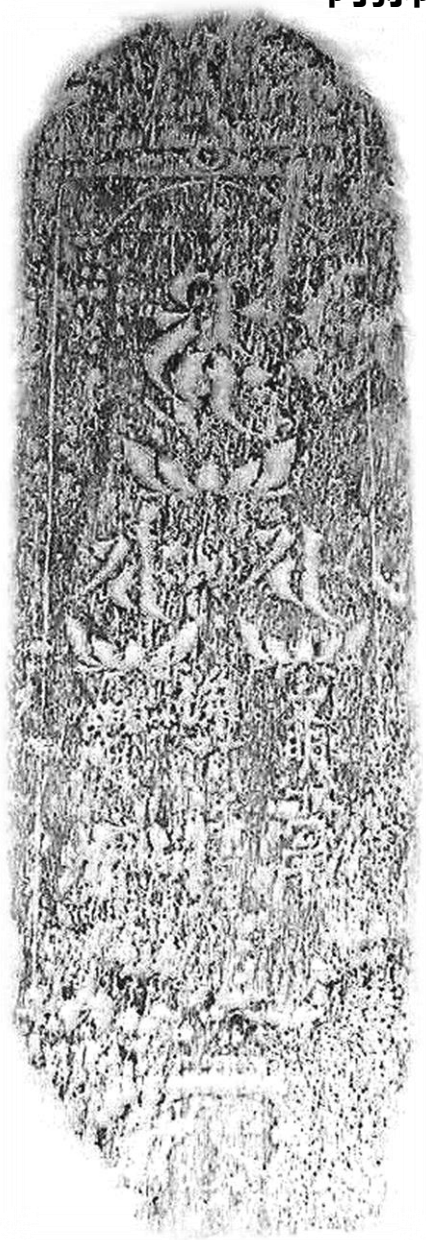


白井市平塚の須藤家の
キリークb類一尊種字板碑
延文6年（1361）

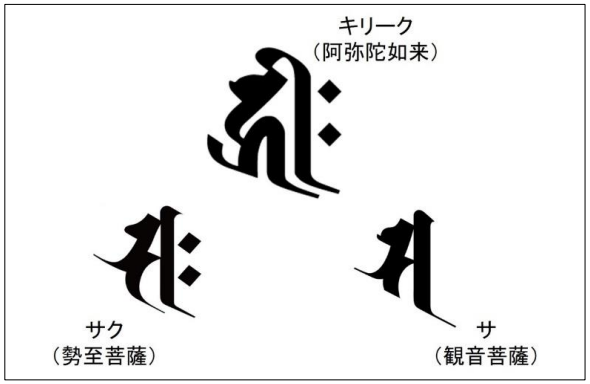
白井市法目地区出土
キリークb類一尊種字板碑
明応4年（1495）

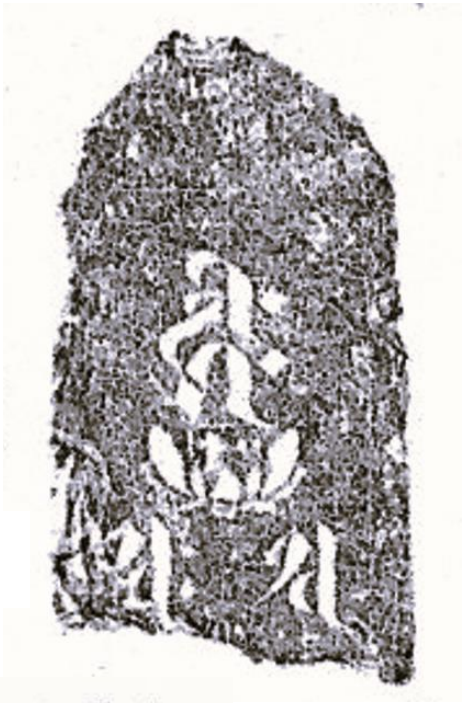
板碑の本尊は？　（2）種字板碑-2　阿弥陀三尊

阿弥陀三尊種字＝阿弥陀如来キリークと脇侍の観音菩薩サ・勢至菩薩サク



八千代市上高野金乗院の
阿弥陀三尊種字板碑
文明11年（1479）銘　天蓋付

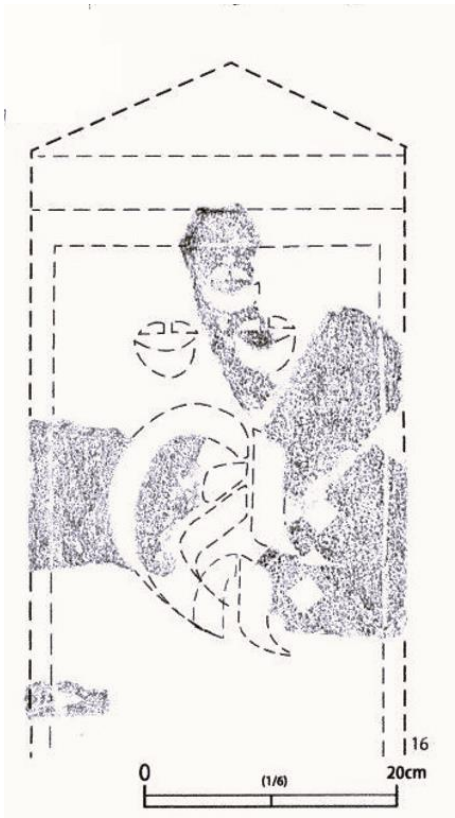




白井市法目仏法寺の
阿弥陀三尊種子板碑

白井市内の阿弥陀三尊種子板碑
永享11年（1439）

板碑とは？　（2）種字板碑-3　荘厳体の阿弥陀種子



白井市法目の仏法寺の
下総型板碑
種字は　荘厳体の「キリーク（阿弥陀如来）

千葉市真蔵院の
武蔵型板碑の種子と蓮座
キリーク荘厳体に
伊字の三点を加える

白井市七次の板碑
種字は　伊字の三点を刻んだ荘厳体のキリーク
千葉県で3例目か？

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-4　釈迦一尊-1

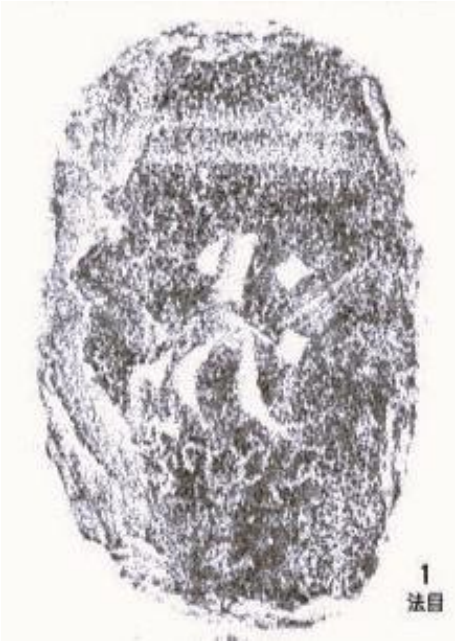
バクの種字を刻んだ釈迦一尊の板碑

八千代市神野の小名木家
貞和4年（1348）銘の板碑
今回の集成作業で、市内では
唯一の「バク」と判明

印西市龍腹寺
正中3年（1326）銘の板碑
2023.8.27撮影
調査中未報告

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-4　釈迦一尊-2

バクの種字を刻んだ釈迦一尊の板碑



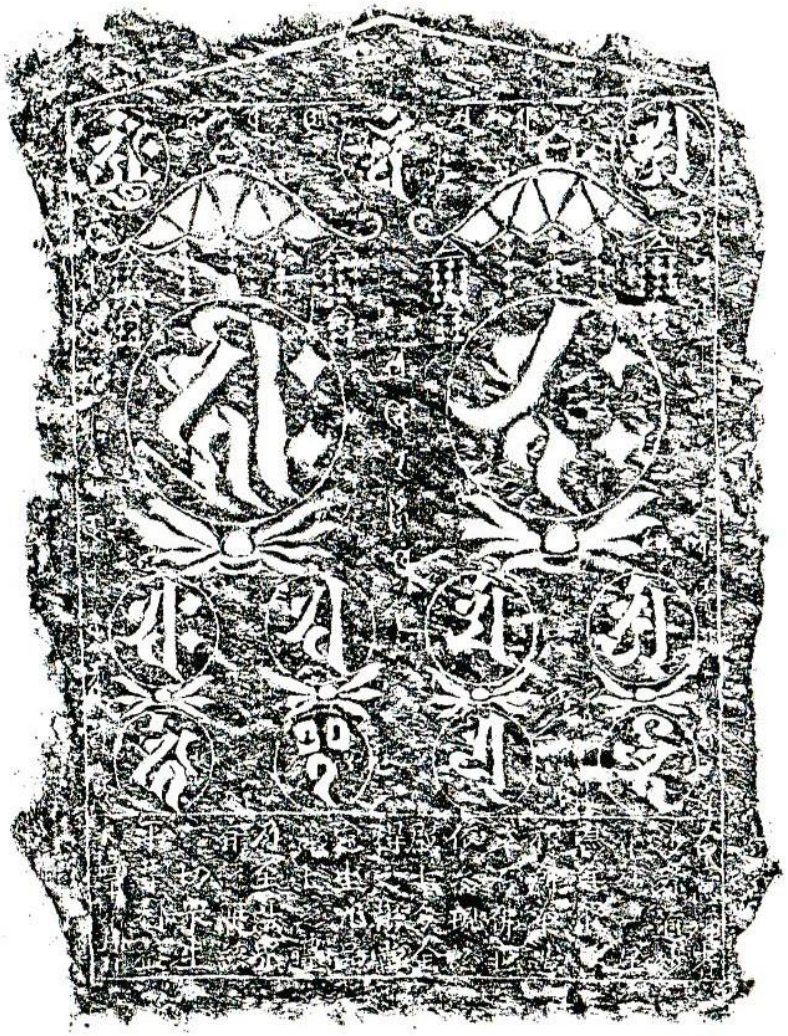
白井市法目地区出土の板碑
元徳年間（1329～32）

白井市平塚地区の乾元2年（1303）銘の
「山本家の板碑」市指定文化財

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-5　十三仏板碑

下総型十三仏種字板碑

印西市吉高の羽黒十三仏堂の本尊の下総型板碑
南北朝時代後期 永和四年（1378）の造立
紀年銘の確かな十三仏板碑としては最古
拓影：『下総板碑』清水長明　1984



室町時代の十三仏図⇒
十三仏とは死者の年忌を
つかさどる13の仏を指す

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-5　八千代市内の十三仏板碑

八千代市内で2022年に神野で初めて発見された**十三仏板碑**（断碑）
種子は、上段左からキリークb類（阿弥陀如来）・バン（大日如来）、
下段はサク（勢至菩薩）・サ（観音菩薩）・バイ（薬師如来）の5字が判明できた。
造立時期は、十三仏の配列や蓮座の形状から天文年間（1532～55）と推定さる

板碑の本尊は？　（2）種字板碑-5　白井市内の十三仏板碑

伊藤榮
印旛郡白井町復長殿（白井村）
一三〇　武藏板碑（斷碑）
高七五
幅二五
長享
二年
（蓮座）
（蓮座）
（蓮座）

板碑の本尊は？　（3）題目板碑-1

題目板碑＝「南無妙法蓮華経」の七字題目などが日蓮宗独特の筆法（髭題目）などで線刻された板碑

①「一遍首題」の板碑
＝「南無妙法蓮華経」の七字題目を刻む板碑

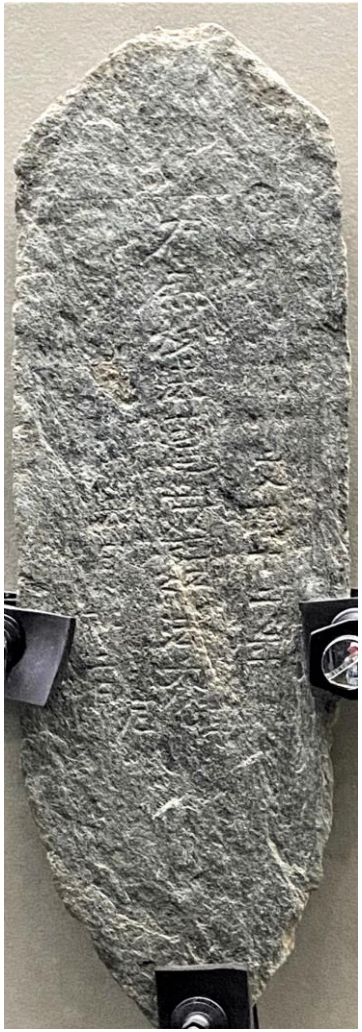
②題目二尊（四尊）の板碑
＝「南無妙法蓮華経」に「多宝如来」と「釈迦牟尼仏」（四尊は、さらに「浄行菩薩」と「安立行菩薩」）が加わる

③十界曼荼羅の板碑
＝中央に七字題目と二尊、四隅に四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子、鬼子母神と十羅刹女などの諸神仏名の文字を刻む板碑

八千代市島田台 間見穴遺跡の板碑
「南無妙法蓮華経」銘

板碑の本尊は？　（3）題目板碑-2

①「南無妙法蓮華経」の七字題目を刻む板碑



「南無妙法蓮華経」銘板碑　八千代市立郷土博物館展示
八千代市小池　文明12年（1480）銘

葛飾城跡出土の題目板碑
葛飾区天文と郷土博物館
享禄4年（1528）銘

板碑の本尊は？　（3）題目板碑-3

②題目二尊の板碑：「南無妙法蓮華経」に「南無多宝如来」と「南無釈迦牟尼仏」が加わる

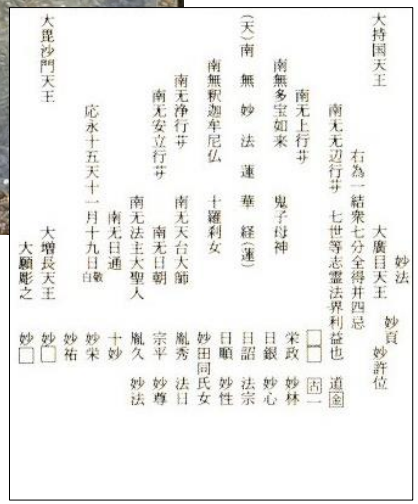
右志為一結衆七分全得
南無多宝如来　也
（天）南　無　妙　法　蓮　華　経（蓮）
南無釈迦牟尼仏
応安二季十一月廿七日敬白

多古町妙光寺の下総型板碑
応安4年（1371）銘
2017.6.20

一塔両尊式の貞和２年銘題目板碑
（東松山市妙昌寺）

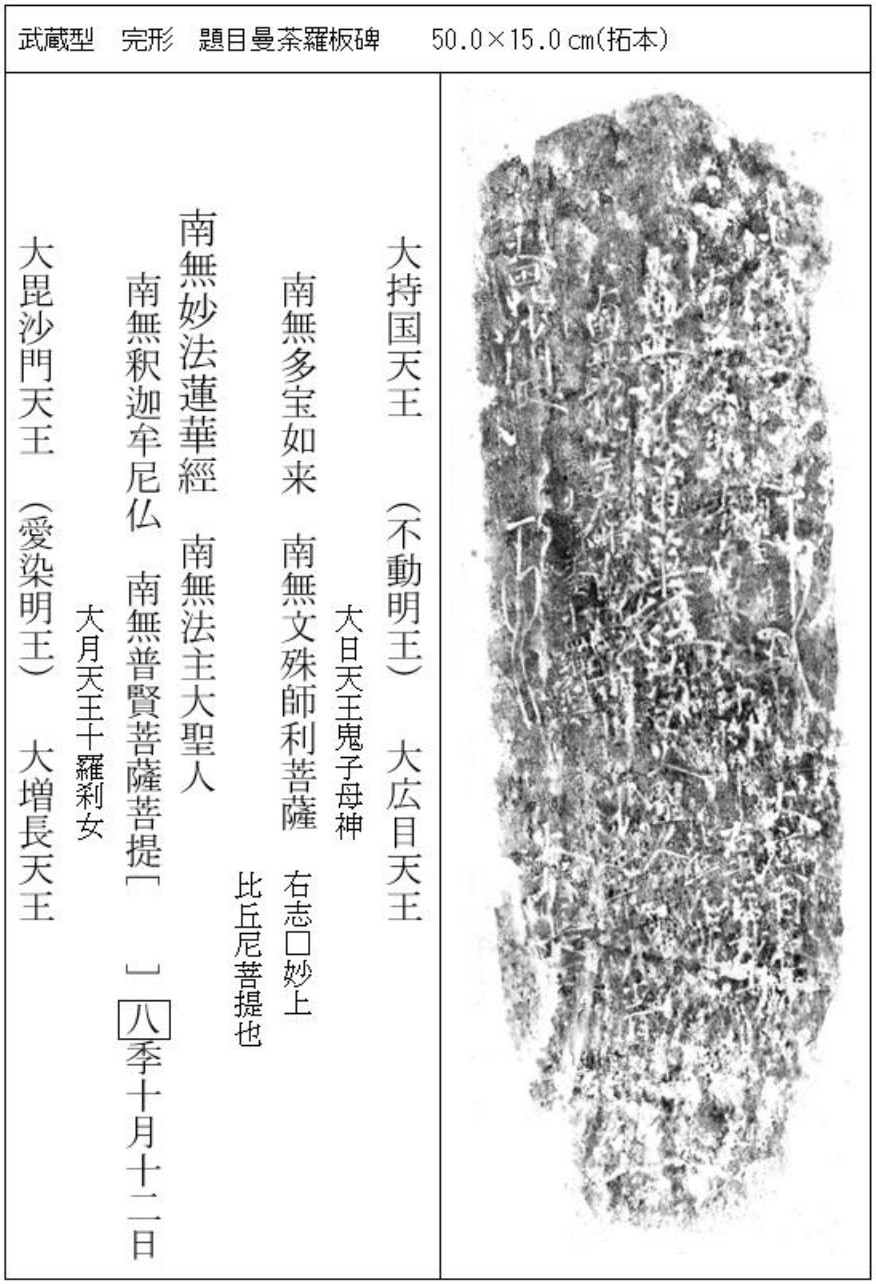
板碑の本尊は？　（3）題目板碑-4

③十界曼荼羅の板碑：中央に七字題目と二尊、四隅に四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子、題目の下に鬼子母神と十羅刹女の文字を刻む板碑



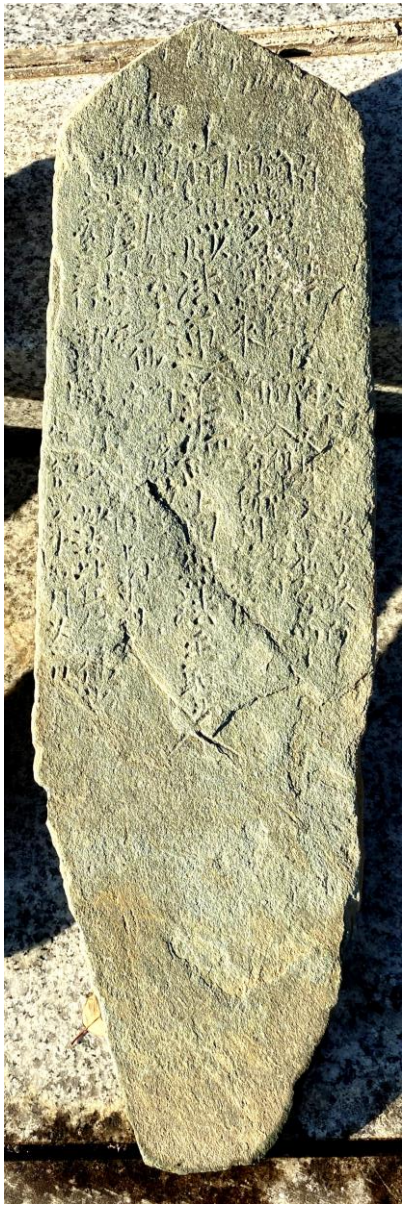
多古町妙光寺の下総型板碑
応永15年（1408）銘　2017.6.20

小池の浅野七男家の武蔵型型板碑



板碑の本尊は？　（3）題目板碑-5 八千代市内の題目板碑-1

小池　妙光寺の
十界曼荼羅板碑
延徳4年（1492）



武蔵型 完形　題目（曼荼羅）板碑　延徳４年（1492）　53.5×15.8cm

大日天王　孝子敬白
南無光邊行菩薩　南無大梵天王　鬼子母神
南無上行菩薩　南無舍利弗尊者等
南無多寶如来　南無文殊師利菩薩
南無妙法蓮華經　南無法王聖人
南無釈迦牟尼佛　南無旃勒菩薩
南無浄行菩薩　南無釋提桓因　十羅刹女
南無安立行菩薩　大月天王　妙法比丘尼石佛也
延徳四季五月廿三日

平成4年の「広報やちよ」コラムで紹介されていたが、『市史』にはデータのない「幻の板碑」で、今回の集成のための調査で「再発見」された。

題目と神仏の名のほか「孝子敬白」「妙法比丘尼石佛也」の銘がある。

板碑の本尊は？　（3）題目板碑-5 八千代市内の題目板碑-2

令和６年度の小池地区の調査で、新たに見つかった明応4年（1495）の「題目二尊」の板碑

・「妙法尼」が本人の「逆修」のために造立した「石佛」で、年銘の明応4年（1495）と人名が判明できる「逆修」の題目板碑である。

・「逆修」とは、本人が生前に後生安楽を祈る法要のことであり建てた正確な造立年銘がわかる。

・「石佛」の銘は延徳4（1492）年銘の小池妙光寺の曼荼羅板碑にも「妙法比丘尼石佛也」とあり、「石の仏」として礼拝されていたこと、また「妙法尼」は延徳4年銘の板碑銘の「妙法比丘尼」と同一の女性であったと推察されます。

板碑の本尊は？　（3）題目板碑-6 白井市内の題目板碑

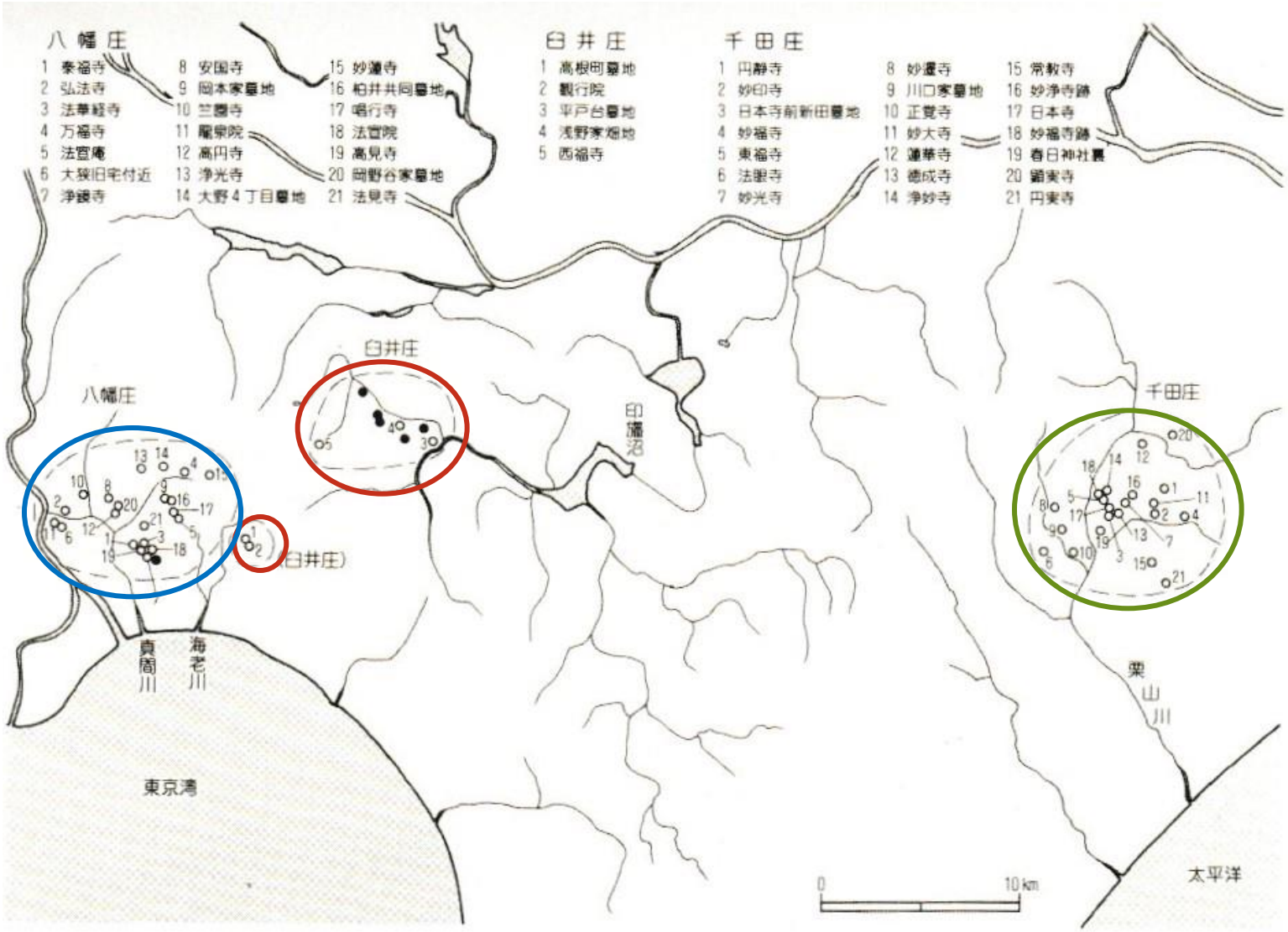
清戸の船橋カントリー倶楽部の板碑
応永24年（1417）
「南無妙法蓮華経／幻山八尼（妙山比尼ヵ）」

清戸の薬王寺の板碑
「南無妙法蓮華経」

冨塚の西輪寺の板碑
長禄4年（1460）
「南無妙法蓮華経」

3.板碑の分布　題目板碑の分布

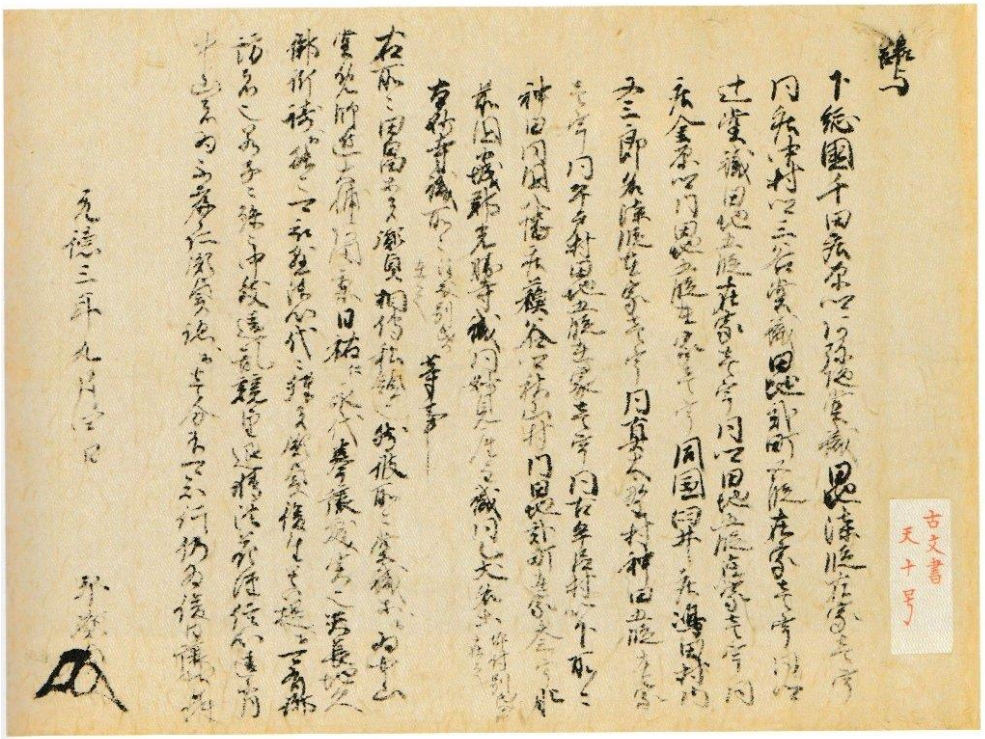
出典：『題目板碑とその周辺』坂田正一　2008



第１図　下総における中山門流下の題目板碑（●造立趣旨不明題目板碑）

板碑の分布　題目板碑の分布の背景

千葉胤貞から養子の日祐（中山門流のトップ）へ、元徳3年（1331）その所領である千田庄・臼井庄・八幡庄内の一部の土地などの譲与が行われ、八千代市内では、嶋田村・真木野村・平戸村がその勢力下に入った



千葉胤貞譲状（中山法華経寺文書）　中山法華経寺蔵　元徳３年（1331）

千葉胤貞が中山法華経寺第３代貫首日祐に寺領を譲与したもの。東国の多くの所領とともに、「肥前国小城郡光勝寺職・同妙見座主職」として光勝寺の名がはじめてみえる。

元徳三年九月四日　千葉胤貞譲状」（『下総中山法華経寺文書』

譲與

下総国千田庄原郷阿弥陀堂職田地七段、在家壱宇、
同庄中村郷三谷堂職田地貳町五段、在家壱宇、
同郷辻堂職田地五段、在家壱宇、同郷田地五段、
在家壱宇、同庄金原郷内田地五段、在家壱宇、
同国臼井庄嶋田村内又三郎名七段、在家壱宇、
同真木野村神田五段、在家壱宇、同平戸村田地五段、
在家壱宇、同古牟呂村以下、處々神田、
同国八幡庄曾谷郷秋山村内田地貳町、在家壱宇、
肥前国小城郡光勝寺職、同妙見座主職、
同乙犬名坪付別紙在之、本妙寺職、所々注文別紙在之等事
右、所々田畠者、胤貞相伝私領也、然彼所々堂職等お、為中山
堂免、師匠大輔阿闍梨日祐仁、永代奉譲處実也、天長地久
御祈祷お、能々可被懸御心、代々殊者胤貞後生菩提お、可有御
訪者也、若子々孫々中、致違乱競望、退伝法華経信心、違背
中山者、為不孝仁、胤貞跡お壱分不可知行、仍為後日譲状如件、

元徳三年九月四日　　平胤貞（（花押）

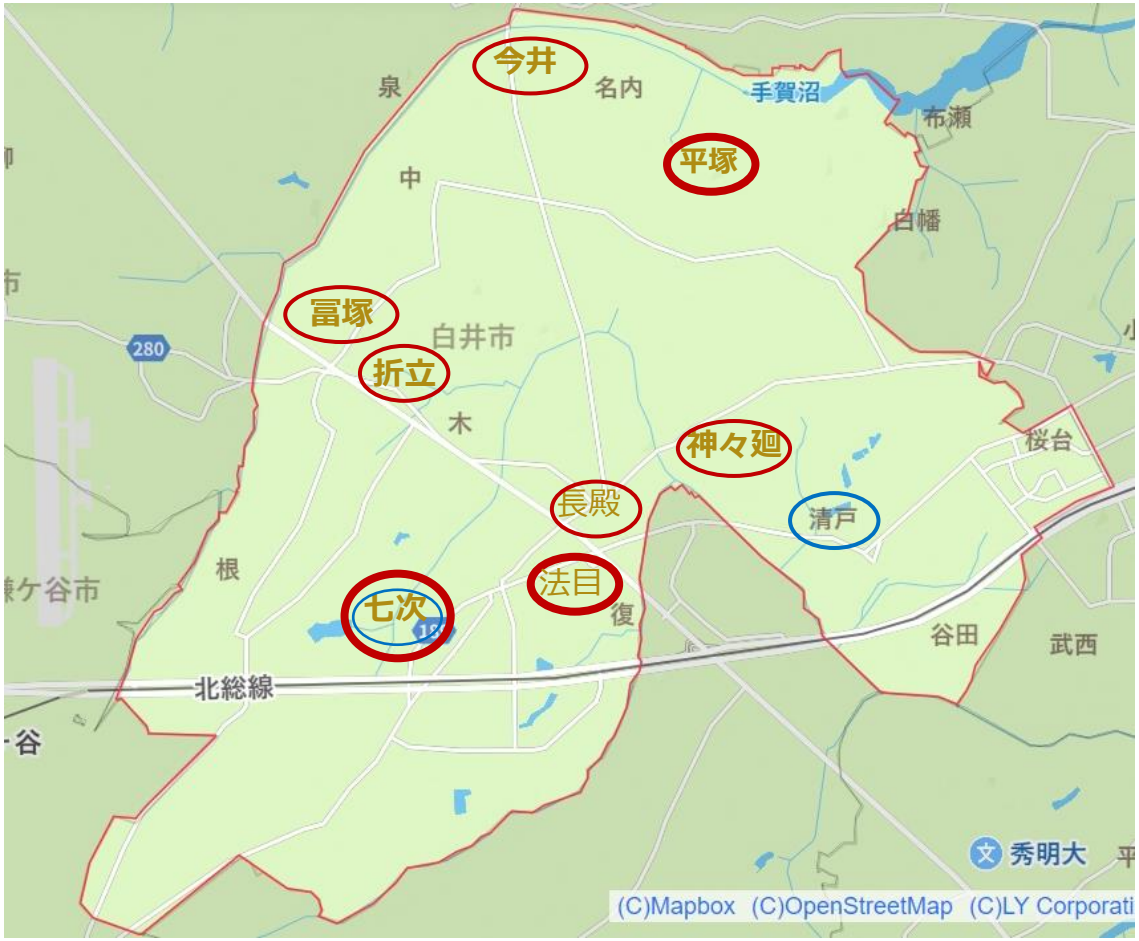
板碑の分布　八千代市内の板碑の検出地

印旛沼上流の新川・神崎川合流域に多く分布するほか、高野川・桑納川流域に点在する
（青〇は題目板碑検出の日蓮宗の旧村）

	八千代市地域別基数	
	神野	42
	米本逆水	26
	村上	22
	米本	20
	下高野	7
	萱田	3
	吉橋高本	2
	神久保	1
	上高野	1
	桑納	1
	保品	1
日蓮宗地域	小池	20
	島田	8
	佐山	4
	平戸	4
	真木野	3
		165

板碑の分布　白井市内の板碑の検出地

下手賀川と神崎川の流域に分布する
（青〇は題目板碑検出地）



白井市地域別基数		
	種字	題目
七次	118	3
法目	19	
平塚	17	
今井	4	
神々廻	4	
冨塚	2	
清戸	0	2
折立	1	
長殿	1	
不明	2	
	168	5

5.主尊と年代　八千代･白井市内の主尊別グラフ

八千代市

総数	種字板碑	題目板碑	不明
165	120	32	13

種字	阿弥陀一尊	105
	阿弥陀三尊	11
	釈迦	1
	観音	1
	大日	1
	十三仏	1
	種字　計	120

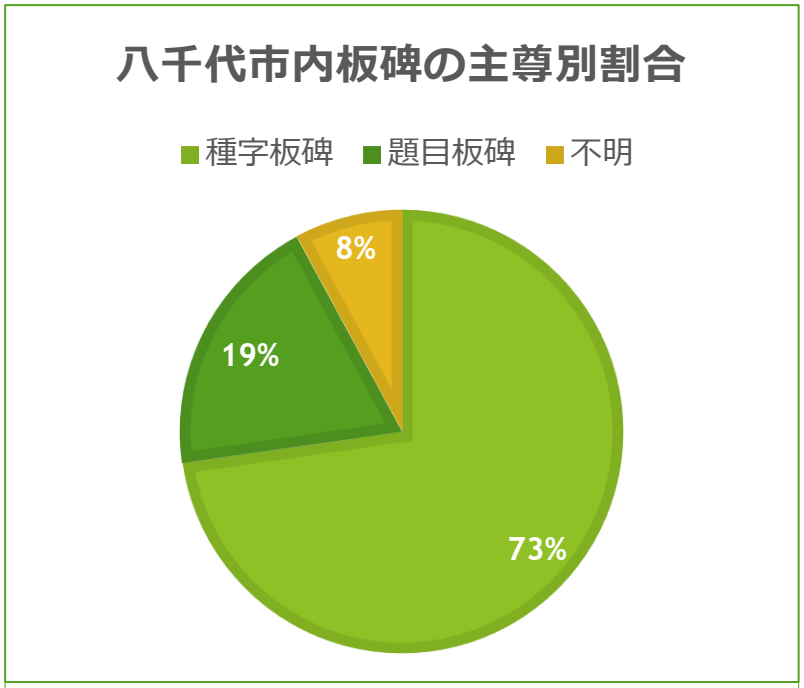
題目	一遍首題	17
	題目二尊	5
	曼荼羅	10
	題目　計	32

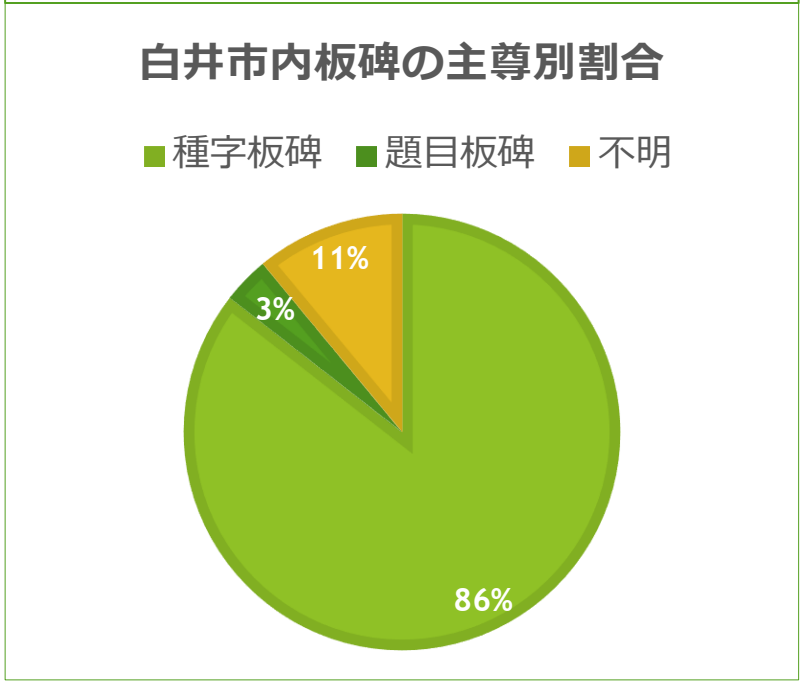
白井市

総数	種字板碑	題目板碑	不明
173	148	6	19

種字	種子	17
	阿弥陀一尊	114
	阿弥陀三尊	12
	阿弥陀地蔵二尊	1
	釈迦	2
	十三仏	2
	種子　計	148

題目	一遍首題	3
	不明	3
	題目　計	6





主尊と年代

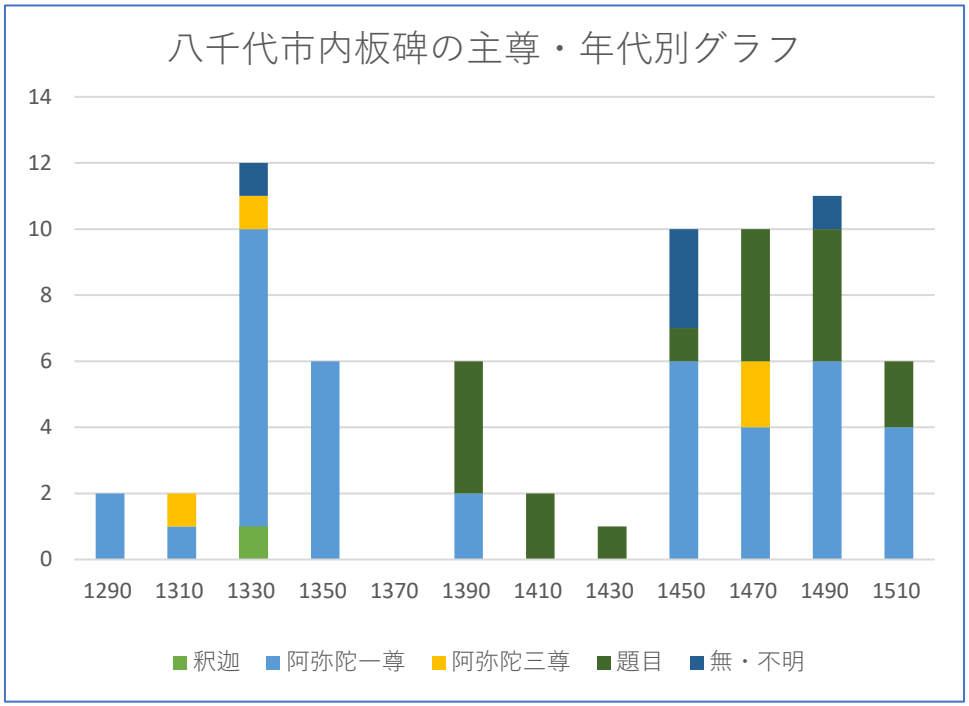
八千代・白井市内板碑の主尊別・年代別表とグラフ

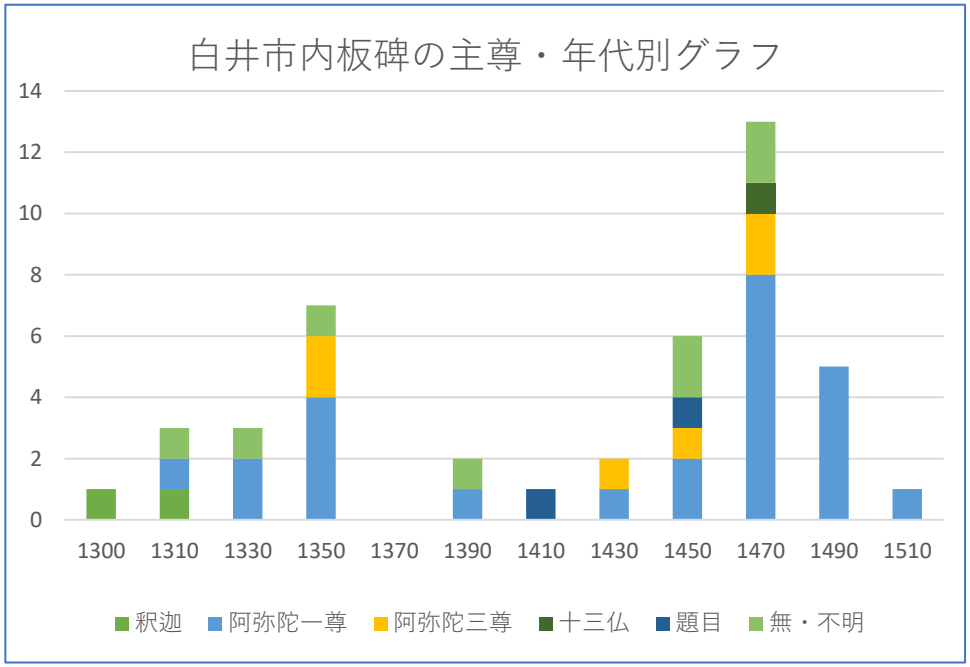
八千代市

年代	釈迦	阿弥陀一尊	阿弥陀三尊	他の種字	題目	無・不明
1290		2				
1310		1	1			
1330	1	9	1			1
1350		6				
1370						
1390		2			4	
1410					2	
1430					1	
1450		6			1	3
1470		4	2		4	
1490		6			4	1
1510		4			2	

白井市

年代	釈迦	阿弥陀一尊	阿弥陀三尊	十三仏	題目	無・不明
1300	1					
1310	1	1				1
1330		2				1
1350		4	2			1
1370						
1390		1				1
1410					1	
1430		1	1			
1450		2	1		1	2
1470		8	2	1		2
1490		5				
1510		1				

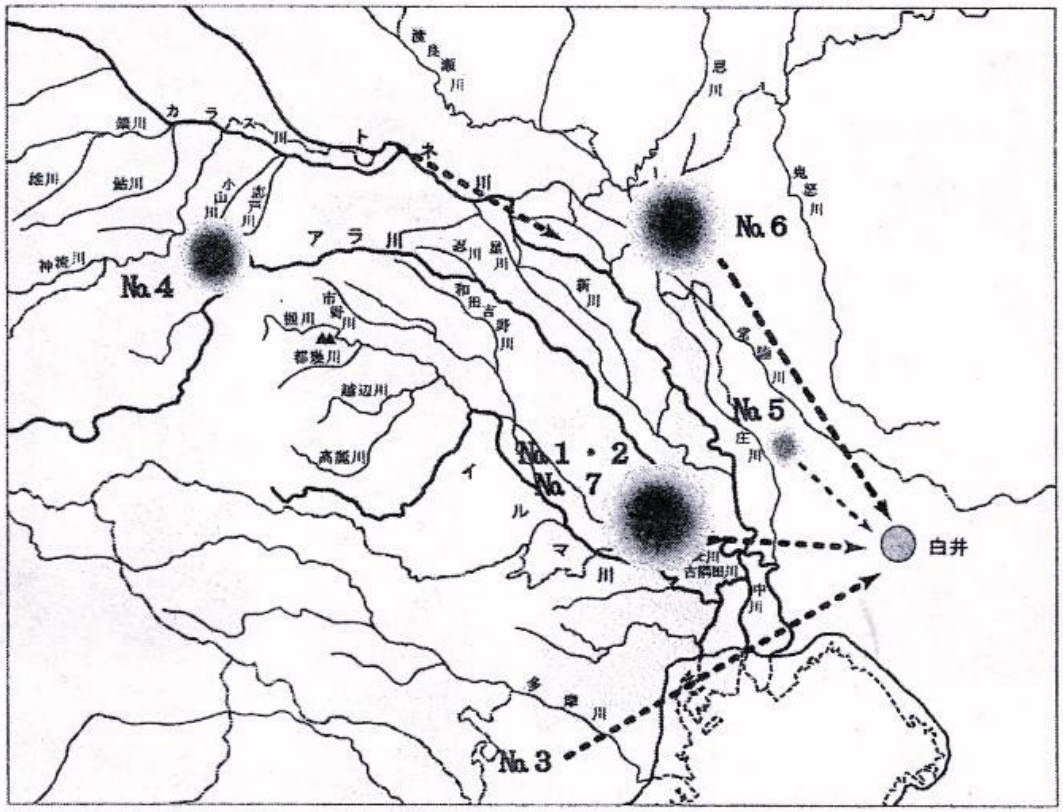




6.板碑研究の最前線

板碑の研究は、その形と梵字・紀年銘・人名などの記録が中心であったが、無刻板碑や、紀年銘などを欠く断碑のほうが圧倒的に多数で、これらの分類や年代の比定も課題となっている。

倉田恵津子氏は、関東・千葉県・白井市の板碑の拓影や実物観察から武蔵型種字板碑を分類し、考古学的な分析を行い、関東の河川の流路と板碑の流通、特に二次生産地についての優れた論考を報告されている。



No.1・2の生産拠点
川口市・足立区・北区周辺域

No.3の生産拠点
多摩川・相模川流域

No.4の生産拠点
皆野・児玉・長瀞町周辺域

No.5の生産拠点
流山・野田市周辺域

No.6の生産拠点
総和・五霞・境町周辺域

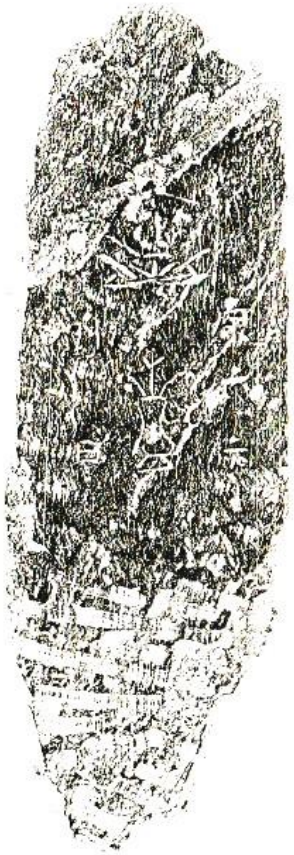
No.7の生産拠点
川口・戸田市、足立・北区周辺域

七次出土板碑の二次生産拠点

板碑研究の最前線

『八千代市の歴史　通史編』では、拓影の蓮座や花瓶に特徴に注目し、多摩川流域に分布する「**蝶型蓮座板碑**」に分類される事例を紹介している。

佐倉市の**石神第1地点**や八千代市の間見穴遺跡など開発に伴う発掘調査で、埋蔵された状態での板碑の発見も続いていて、今後、墓制との関連などの謎も解き明かされつつある。



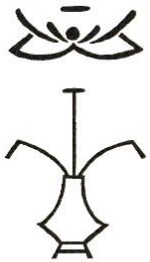


図５　蝶型蓮座板碑模式図
『川崎市史』1993より

図４　正覚院館跡出土蝶型蓮座板碑

佐倉市臼井南遺跡石神第1地点　発掘調査実測図

おわりに

板碑は、当時の人の営み、信仰、物流など中世の地域の歴史を教えてくれる貴重な史料です。

共同墓地や寺社境内のほか、個人の畑や山林で見つかるものも多く、板碑が貴重な文化財であることを広く知ってもらうことによって、市民による新しい発見が期待できます。

2024年12月1日「ふるさとの歴史展」で、
板碑出土地の旧村の方々に板碑について説明

2000年以前に編纂された『八千代の歴史　資料編』や『千葉縣史料』掲載の板碑データは重要な資料ですが、板碑の新しい視点での研究に、やはり、拓影または鮮明な写真の必要性が強く感じさせられます。

八千代市立博物館や所蔵者などの協力を得て、これらの再調査を行って集成を完成させるとともに、未知の板碑が市民からの情報で新発見されることを願っています。

ご清聴ありがとうございました